

## 〈講演要旨〉

### 小さな一歩から：

### 「東京医科大学病院患者さま図書室」のあゆみ

東京医科大学図書館

野 坂 美恵子

#### 1. はじめに

一般市民の医療情報ニーズが高まるなか、数年前から患者さんへ医療情報を提供する機関が増えてきている。当院の「患者さま図書室」が開設して5年余りが経過した。スペースが狭い図書室ではあるが、資料の充実を図るとともに吟味したインターネット情報の利用、大学図書館のサポートなどで質の高いサービスを目指している。

#### 2. 「東京医科大学病院患者さま図書室」の概要

名称： 東京医科大学病院患者さま図書室  
開設： 平成18年6月1日  
開館時間： 月曜日～金曜日 9:30～16:30  
面積： 15㎡  
蔵書数： 図書860冊 各種パンフレット（平成23年10月1日現在）  
病院長直属の組織という位置づけである。

#### 3. 開設の経緯・準備

平成16年12月に公になった当院の医療事故の遺族側から、平成17年7月事故再発防止の10項目の提案が示され、この中に「患者のための医療情報図書室の設置」という項目があり、これを受けて病院長より大学図書館長へ協力要請があった。これを契機として平成17年12月に準備委員会が発足し、副院長、看護部、総務課、資材課、図書館職員などの構成員で数回の会議を経て具体的作業に入った。

準備会議では、図書館から先行図書室の事例紹介、常駐スタッフの必要性、資料提供のポリシーを決める、利用者のアクセスのよい場所であること、院内各部署との連携が必要であることなどを提案した。

#### 4. 図書室の目的・方針

患者や家族の方々に病気や体について医学的に信頼できる情報を提供し、精神的な援助の場所となることを目的とし、特定の治療方法は推薦しない、個人の医療相談は受けられない方針とした。

利用対象者は入院・外来患者、家族その他特に制限しない。利用は閲覧のみで貸出は

行わない。インターネット利用、図書室内コピーは無料で提供する。

## 5. 資料収集

資料収集の方針は図書室の目的に合う最新の資料、一般書店では入手がむずかしい専門書で非医療従事者でも理解できる資料を収集する。一般書、闘病記、雑誌、ビデオやDVDなどのAV資料は提供しない。

資料収集と整理は大学図書館が担当した。大学図書館員が選書し、副院長の承認を得て資材課が書店へ発注する。納品後大学図書館が受入、整理、装備等の作業を行った。収集

対象は医療情報のみとし、雑誌の定期購読はしない。図書は大学図書館の図書館システムに入室扱いとして登録した。分類は大学図書館と同じNLM分類を採用し、「くすり」「メンタル」などわかりやすい言葉を背ラベルに付与して案内した。

「患者さま図書室」開設前は学内・院内の教職員へ図書やパンフレットの寄贈についても依頼した。パンフレット類は看護部・薬剤部よりチェック済みのパンフレットを受入した。製薬会社の宣伝色の強いものは除くなど、看護部・薬剤部の目を通すことにより提供内容の質を保つよう心がけた。



## 6. 備品

閲覧机 2台、書架 5段3連、事務用机、利用者用PC、スタッフ用PC（学内LANに接続し、データベースや電子ジャーナルの利用可能）、プリンタ、コピー機、パンフレットラック、キャビネット各1台を設置した。

表1 利用者数

	利用人数	1日平均
平成18年度*	2,719	13.4
平成19年度	2,626	10.9
平成20年度	2,845	11.8
平成21年度	3,016	12.6
平成22年度**	2,614	11.5
合計	13,820	12.04

## 7. 利用状況

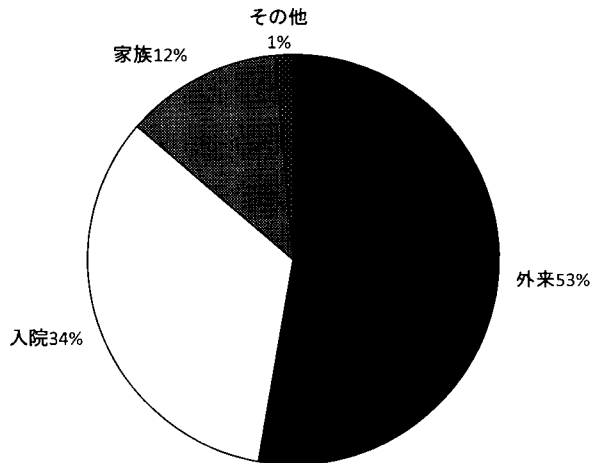
利用者数については表1に示した。平成18年度から平成22年度まで5年間の総利用者数は13,820人、1日平均利用者数は12.04人であった。

\* 平成18年度は6月～

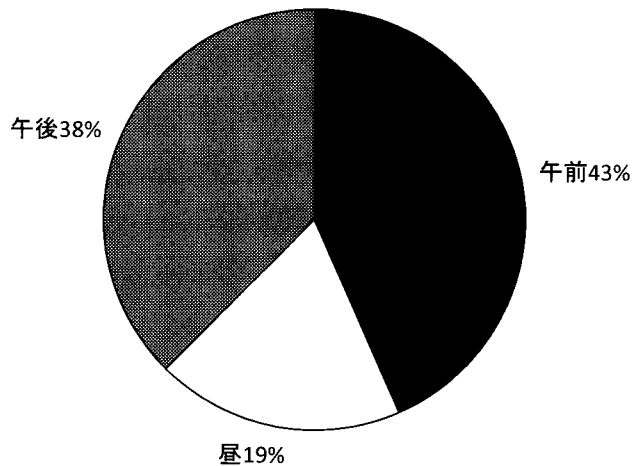
\*\*平成22年度は3月11日まで

利用者種別利用者数は平成20～22年度について集計した（図1）。半数以上が外来患者さんで入院患者さんの比率は開設当初より減少傾向にある。

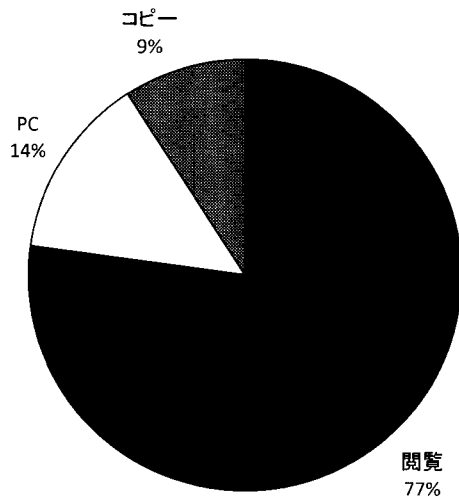
また、利用時間帯は12:00～14:00時の昼休みの時間帯がやや少なく、9:30～12:00と14:00～16:30の利用者がほぼ同率の利用数である（図2）。



〔図1〕 利用者種別集計



〔図2〕 時間帯別利用数



〔図3〕 利用動向

利用者の利用動向（平成20～22年度）では図書の閲覧 77%、パソコン利用 14%、コピー 9%という結果が得られた（図3）。

## 8. 参考業務内容

患者さま図書室では専任スタッフ2名が午前と午後に分かれて勤務している。「参考業務票」を作成し、患者さま図書室のスタッフが利用者からの質問等、回答内容などを記録し、大学図書館と情報を共有している。

この「参考業務票」の平成20～22年度分148件を提供した情報媒体について集計した結果は、図書 45%、Web情報 30%、両方24%、その他 1%であった。このうちよく使われる図書は『看護のための最新看護学講座』（中山書店 2002-2009）、よく利用するサイトは『メルクマニュアル家庭版』<http://merckmanual.jp/mmhe2j/index.html>という結果であった。

## 9. 大学図書館のバックアップ

病院と同じ敷地内に大学図書館本館がある。大学図書館の利用対象者は教職員、学生、卒業生などとなっているが、患者さま図書室の資料だけでは物足りない利用者へは患者さま図書室を窓口として大学図書館の資料を提供している。大学図書館とは連絡ノート記入で情報を共有している。

また、「参考業務票」の内容を確認して、大学図書館からもスタッフにアドバイスなどを行っている。

## 10. 今後に向けて

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で「患者さま図書室」が位置している当院医局棟も被害があった。患者さんが利用する建物としては安全上ふさわしくないという理由により、3月以降平成23年11月現在閉室となっている。近い将来新教育研究棟の建設が予定されていることもあり代替の場所が見つからないため閉室が続いている。我々も一日も早い再開の要望を関連部署へ訴えている。

利用者アンケートの要望をみると、スペースの狭さを指摘しているものが多い。我々も開設当初からスペースの拡大を希望していた。新図書室として再開の際には闘病記や一般書などの蔵書構成やDVDなどの視聴ができるなどを視野に入れたスペースを希望している。

## 参考文献

遠藤典子, 東京医科大学病院「患者さま図書室」を開設して, 医学図書館, 2007;54 (2):172-175.

江上裕菜, 良質な医療情報提供にむけて:東京医科大学病院「患者さま図書室」の分析, 医学図書館, 2009;56 (2):131-135.